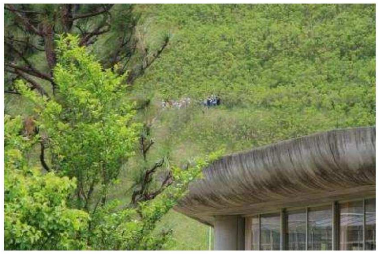
## なぜ登らなかったのだろう？

大川小の周りは大昔から山です。
大津波警報が出て学校のとる対応とすれば山へ避難するのがごく当たり前と言えます。このことは大前提です。

体育館裏の山は傾斜がなだらか（9°）で、シイタケ栽培の体験学習を行っていた場所です。（写真①）
また、校庭脇の斜面は、崩れないように土留め工事が施され、上はコンクリートのたたきで低学年が授業で登っていたことが分かっています。（②）
この場所は校長先生が何度も登って、ここから写真を撮っています。（③）
授業で使われていた場所、校長先生が撮影した場所はいずれも下から2段目です。
1段目でも、登っていれば助かっていたのです。（④）
当時は毎年草も刈られていましたし、3月なのでさほど雑草も延びていませんでした。

四つん這いで、泥だらけになって山を登った小学校もあります。この山を登れないとは言えません。**登れるかどうかではなく、「なぜ登らなかったのか」を検証すべきです。**山は余震で崩れるかもしれないというのであれば、他の手段を講ずるべきですが、その話し合いをした様子はありません。

① 体育館裏シイタケ栽培の山



② 校庭脇の山は低学年の授業で登っていた

③校長先生は何度も山から撮影

④ 津波が到達した高さ

最初の動画はAシイタケ栽培の山側からBに行く様子。1分00秒くらいの場所まで登れば助かっています。
山の前の道路はマラソン大会のコースです。

次の動画は急斜面と言われるCポンプ小屋わきの竹藪から登った様子です。竹につかまれるので比較的登りやすく、実際Bの授業ではこちらから登っています。
先生はもちろん子ども達も全員そのことは知っていました。

A 体育館裏の山
傾斜緩やか　椎茸栽培体験学習などで登っていた

B 校庭脇の山
Aよりは急だが低学年の授業でも登っている

C ポンプ小屋脇の山
多くの子ども達はここに追い込まれた。急勾配だがここを登って助かった。

D 三角地帯
ここを目指して移動したとされている。